

はじめに

東京都が設置している中央卸売市場は、生産地と消費地の結節点として、わが国の生鮮食料品流通の中枢を担っています。

その一方、市場で日々展開される旺盛な取引活動は、集荷と分荷の際の膨大な数の自動車の使用による大気汚染、仕分け等に伴う廃棄物の大量発生という大きな環境負荷を生じさせています。また、生鮮食料品を取り扱う性格上、冷蔵庫などの機器の使用により、多大なエネルギーを消費しています。

東京都と市場関係者は、中央卸売市場を環境に配慮した市場としていくために、共同して、自動車による大気汚染、廃棄物の大量発生、エネルギーの大量消費という大きな環境負荷を低減させていくように努めています。また、近年急速に高まっている消費者の関心に応え、食の安全・安心を確保することが、全市場関係者に課された重要な責務であると受け止め、品質管理の高度化、衛生対策の強化も図っています。

この白書は、中央卸売市場の環境及び安全・衛生の現状を明らかにするとともに、それに対する取組を紹介することで、東京都と市場関係者が情報を共有して課題の解決に取り組み、市場活動により生ずる環境負荷の低減と市場の安全・衛生の向上を実現することを目指しています。

東京都中央卸売市場を「環境にやさしい市場」「食の安全・安心を確立した市場」とし、今後とも首都圏の消費者に生鮮食料品を安定的に供給していくために、本書が全ての市場関係業者の皆さんにとって、「地球規模で考え、地域的に行動する」ための一助となれば幸いです。

平成 18 年 5 月

東京都中央卸売市場長
森澤 正範